

東南アジア在留邦人におけるオーラルフレイルのリスクと関連要因に関する研究のお知らせ

神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科では以下の研究を行います。
本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間	2024年10月30日～2026年3月31日
研究課題	東南アジア在留邦人におけるオーラルフレイルのリスクと関連要因
研究の概要	<p>目的及び意義：</p> <p>グローバル化により、海外に長期滞在する日本人（海外在留邦人）は増加し、経済成長が著しい東南アジアで顕著である。その中でも、カンボジア、ベトナムの発展は目覚ましく、現地に進出している日系企業は増加している。その一方で、東南アジア在留邦人の海外生活でのストレスによるメンタルヘルスの不調や、生活習慣病などの健康問題は深刻であり、現地で病状の悪化や疾患を発症する者が少なくない。</p> <p>近年、加齢により、食事や会話に重要な役割を果たす口腔機能（舌や口唇の動き等）の低下のみならず、社会的背景や精神的問題、食・栄養の問題などが複合して生じる「オーラルフレイル（口腔の虚弱）」が注目されている。オーラルフレイルは、高齢になる前から連続的に起こり、早期からの予防が重要である。</p> <p>わが国と異なる生活環境下にある東南アジア在留邦人は、オーラルフレイル等の口腔健康リスクが生じやすいと考えられるが、詳細は明らかでない。</p> <p>本研究は、東南アジアで経済成長が著しい、カンボジア、ベトナム在留邦人（20歳以上）を対象として、以下の課題について明らかにすることを目的としている。</p> <p>本研究で得られた知見は、東南アジア在留邦人における健康管理プログラム立案の科学的根拠として寄与する。</p> <p>(1) 両国の在留邦人におけるオーラルフレイルのリスクはどのような状況か？</p> <p>(2) 両国の在留邦人におけるオーラルフレイルのリスクに関連する因子は何か？</p> <p>対象：</p> <p>本研究は、カンボジアおよびベトナムで行われる。 以下の基準を満たすものを研究対象者として選定する（各国150名）。</p> <p>(選定基準)</p> <ul style="list-style-type: none">・カンボジア、ベトナム在留邦人<ul style="list-style-type: none">- 在留歴3か月以上- 20歳以上 <p>(除外基準)</p> <ul style="list-style-type: none">・インフォームド・コンセントが得られないカンボジア、ベトナム在留邦人・日本語の読み書きができないカンボジア、ベトナム在留邦人 <p>方法：</p> <p>カンボジア、ベトナム在留邦人におけるオーラルフレイルのリスクとの関連要因を検証するために、以下の内容でオンラインでの自記式質問票調査を行う。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ① 対象者の社会的背景 ② 生活習慣および全身の健康状態 ③ 対象者のコミュニケーション（語学力） ④ 口腔保健行動 ⑤ オーラルフレイル ⑥ 歯の本数 ⑦ 歯周病 ⑧ 栄養摂取状況 ⑨ 孤独感、社会とのつながり ⑩ メンタルヘルス ⑪ 社会参加 ⑫ 身体活動
研究組織	<p>研究代表者 ヘルスイノベーション研究科 講師 久保田 悠</p> <p>研究分担者 ヘルスイノベーション研究科 准教授 中村 翔 他3名</p>
個人情報の取扱い	<p>本研究の実施にあたっては、ヘルシンキ宣言、「個人情報の保護に関する法律」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および本研究計画書の記載を遵守し、協力者の人権、福祉および安全が最大限に確保される。</p> <p>本研究におけるデータは、電磁的方法で取得され、録音、録画、逐語録等は含まれない。オンラインでの自記式質問票から取得した現病歴、既往歴は、要配慮個人情報に該当する。これらは、個人が特定されないように、個人を識別できる情報を削除し、本研究代表者もしくは分担者により匿名化された状態で取り扱われ、個人情報管理者（久保田 悠）の下で保管される。研究責任者は、研究の実施に際して個人情報が適切に取り扱われるよう、研究機関の長（学長）と協力し、他の研究者の指導・管理を行う。</p>
その他	

対象となる方で、研究の内容や、ご自身の検査結果などの研究への使用に関して、より詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記の間い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

〔問い合わせ先〕

研究代表者：ヘルスイノベーション研究科 講師 久保田 悠
TEL：044-589-8100（代表）